

## 伊勢市廃棄物減量等推進審議会（平成 29 年度第 2 回）審議結果等

○ 日時：平成 30 年 1 月 25 日（木）15 時から 17 時

○ 場所：伊勢市役所御園総合支所 2 階 2-4 会議室

○ 出席：

➤ 委員：10 名

➤ 事務局 3 名

○ 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

### ● 審議事項に対して

（○ごみ処理基本計画の見直しについて）

（委員 1） 2 ページの表で、目標の達成状況の中で資源化率、パーセンテージが 16.24 だが、39 ページを参考にして可燃ごみ量と最終処分量は合っているが、現状 24.1%が実績である。この数字の違いは？

（事務局） 2 ページは、焼却灰などを抜くとこの数字になる。

（委員 2） 資源化率の話だが、人口減少しますよね。それで全体の可燃ごみ量が減ってきて、資源化できるごみの量が相対的に減ってくるが、さっきの話だと、年間 300 t くらいずつ資源化されるごみの量が増えていっても、全体としては率が減ってくるが、そのへんよくわかってないが、人口減少とともに全体の可燃ごみ量が減った時に、今、食品ロスや雑紙などを努力して、資源化を増やしていく。それが 300 t に相当するのかなと思ったが、例えば可燃ごみが今 100 あって、それが人口減少で 90 まで落とせたとして、資源化されるごみの量が、今 10 あったのが 9 に減ったとき、9.1 であっても資源化率としては上がる。

そのように考えると、ごみの量が若干増えても結局は資源化率って上がっていくんじゃないのか？そのへんの計算のからくりをもう少し具体的に説明してください。

（事務局） 単純計算すると、300 t 近く雑紙類が 4 割燃えるごみから減ると（資源化率が）上がるんですが、ただ実績的に 4 割増えたところで市の回収になるとは限らない。スーパーや新聞店に行ってしまう。4 割全部増えれば上がる可能性はあるが、例えば段ボールとか他の資源類が増えたとしても、スーパーが多いと分析している。年間で 200 t、300 t 雑紙類が減っても、説明がつかないところがある。

（委員 2） 市から出るごみの量としては、そこを含めると資源化率は全体としては上がってくる。ただ、市単独で見ると率としては下がってしまう。その辺が、全体としては資源化率が上がっているのに、それで

言うて下がっているというのが何かパッとしないというか、残念だなと。その辺うまく流れを作ることを含めて、表せるような方法とかなないのか？そうすると、市民の方も「頑張ってるね」とそんな所が出てくると、やりがいを感じていただけるのではないのか？ちょっと数字としては、うまく合っていないというのが残念。

(委員1) それについて、スーパー等へごみを出すと、ポイント加算される。どのくらい出たかデータさえもらえたら、当然それは資源化率がどのくらいなされているのか分かる。そこを市ができるかどうかではないのか？

(事務局) 資源化率の部分で、雑誌・雑紙、ペットボトルもそうだが、スーパー等、この2、3年間で回収がスタートして拡大している事実がある。その前には新聞店さんと思うが、平成22、23年くらいに、その時もごっそりごみ量というか雑誌類が700とか800tのレベルで減少した。新聞をとらない方も増えてきている。ネットで見ていの方も増えてきているということで、資源化率は若干減ってくる事実がある。そういう傾向の中で、説明を書かないと分かりにくい部分はある。委員1さんが言われたように、情報はなかなかいただけないのが現状。

いただけるスーパー等もあるが、全部がそうでもない。市内には2つ古紙業者があるが、数字も掴めてないというかとータルで見るとからだと思うが、そこだけ言っている訳ではないので、ご存じのとおり月に1回、軒先に出したら回収しているが、それも単独で量を把握してないので、出た量はどのくらいというレベルでしか分からない。行政としてはなかなかつかめない数字。

(委員1) 新聞店の回収に結構な量の新聞が軒先に出ているので、かなりの量が流れているのではないか。

(事務局) 取っている新聞が、日曜か月曜の朝刊に折込で「ごみ回収します」と入ってくる。

(委員3) 中間的なスーパー等で、協力する所があれば。最終的な業者、大きい所でつかんでいかないと、ちゃんとした数字が掴めないままの資源化率。そのようにして進めていけば、最終目標がもうちょっと上がってくる。中間じゃなくて最終的な所で協力していくような形で数字をつかむように。どこかでご協力いただいて、数字をつかみつかむのは行政しかやれないことで銘々の所ではできない。そうしないと、せっかく数字を出しても疑問点がまたでてくる。

(委員4) 少なくとも、分かりやすい説明で。(資源化が)下がっても実は違うんだという説明がないと、数字だけ見るとお二人がおっしゃったように、何だということになるので残念だ。せめて説明で分かりやすいように。

- (委員5) うちは中学校で年に1回廃品回収をしている。自治会で廃品回収を毎月しているが、そういうものはどこに含まれているのか？
- (事務局) 廃品回収の数字は、再生資源奨励金で補助金を出しているのので、その数字に含まれている。
- (委員3) 先ほども申し上げたように、それは中間ですよ。最終処理をしてくれる回収業者の数字はないのか？
- (事務局) その業者さんについて、説明としては書かなければいけないが、なかなかそこも・・・市内に業者があるが伊勢の資源だけ集めているわけではない。行く時にどこかわからない。持ってきた業者さんが計るだけなので、それが伊勢からなのか玉城なのか分からないので、そういった数字は無理だと思う。文言をつけるしかないかと。
- (委員6) この資料の数字を何らかの形で「これは含んでません」など、説明してなぜこの数字であるか、文言説明をした方が良いでしょう。
- (委員3) それよりも、ご協力いただいているという根本に向かっていかないと。文言うんぬんではない。
- (事務局) こういう数字だが、いろいろご協力いただいて、こういうところもある。ですが、その数字は反映されていないと、説明します。
- (委員4) そういう文言を付けていただかないと、努力している割に残念な気がする。
- (委員6) 雑紙はどのような周知を考えているのか？私どもの自治会でも回収しているが、新聞紙や段ボールに比べて雑紙の出る量が少ない。もう少し、30年度は回収量が増える方法を考えるべきである。これも出して下さいとか。
- (事務局) まだこれから考えていく。今、考えているのはいったん自治会に入らせていただこうかと。食品ロスも含めて。あとで説明するが「もったいない」という言葉を広めていきたい。初心に戻ってもう一回やりましょうと。
- (委員6) なるべく早めに取り組んでいただいて、雑紙について市民に分かるように。雑紙回収の方法を考えていただきたい。
- (事務局) まち協さんと連携して、学校で子どもさんに作ってもらうことも計画している。できるかどうかはこれからの話だが。
- (委員6) どこまでが雑紙なのか？雑紙と段ボールの仕分けが難しい。
- (委員4) 名古屋は段ボールや新聞紙は同じ日に同時に集めている。
- (事務局) 別のところでは言われたが、収集する方ではなく、出す市民の方が出しやすい考え方を工夫しなくてはならない。
- (委員4) (以前からの会議で紹介している) 25ページのCLL活動のカモシカのキャラクターを書いた袋に雑紙を入れる方法もあるが、袋が小さかったのでもう少し市民の方が入れやすいように大きくするか。そんな工夫もお願いしたい。

- (事務局) 雑紙は雑誌と一緒に出せるので、今までは雑誌の間に挟んで出すよう説明していたが、それではなかなか認知されないので視点を改めていかなければならない。
- (委員7) シュレッダーした紙はどのように出すのか？お菓子の箱などを出すのに雑誌などの間に挟むとまっすぐにならず収納に困る。シュレッダーごみは袋にしか入らない。袋に入れる形にしないと。雑誌に挟んだり封筒に入れたりができる人ばかりではない。周知ができていない。市指定の雑紙袋があれば分けられる。雑紙を出しやすい環境を作る必要がある。人口が減っているのにごみが減っていかない。シュレッダーしても資源になることを進めていかないと、解決しないのではないかと？
- (委員4) 市はシュレッダーの紙は燃やしているのか？
- (事務局) そのあたりは再度、古紙業者さんと話して、どこまで取れるのかというのもある。
- (委員3) その前に、どれが雑紙かということの周知が必要。
- (委員4) 雑紙とは何か？ということを知りたがるべきである。
- (委員3) 雑紙回収袋があったほうが入れやすい。
- (事務局) 市はいろんな分別をしているが、市は袋という考え方は、燃えるごみしかない。なぜかというところ他市町はペットボトルなど袋で回収しているが、袋自体がまたごみになる。伊勢市では紙は紙袋へ、ペットボトルはここへ入れてくださいというスタイル。ごみになるものをまた作るのはいかがなものかという考えもあるので、ごみにならずに資源になるもので取り組みたい。
- (委員7) 買い物の紙袋に雑紙を入れて「紙ごみ」の表示を貼るなど、そのようなものを各戸配布するなどすればよい。
- (委員8) 他町は分別に厳しく、伊勢市はゆるいと聞く。雑紙を燃やすことによる弊害、燃やすよりリサイクルにかけたほうが環境にも良いし、行政としても費用的にも良いのではないかと？その差はあるのか？
- (事務局) 紙類なら、焼却すれば費用がかかるが、売却なら収入になる。市は売却している。例えば、これから伊勢広域環境組合の施設が更新時期になった時に、より一層ごみを減らした方が、建てる費用が下がる。分別に関しては市民の方にはいろいろ負担をかけている。市民の皆さんがやりやすく、出しやすい考え方で臨まないと進まない。
- (委員3) 行政が市民にお願いしている、そういうことは考えなくてもよい。当然の権利と義務。市がお願いしなくても我々はやるべき。
- (委員6) 高齢者に分かるように単純にしてほしい。分別の判断ができない。高齢者世帯は一人用、二人用などのパックの数が増える。行政、スーパー、市民会議などでパックの数を減らすように考えないと。ペットボトルの数も増えている。

- (委員7) 会合で弁当は買うが、蓋、中身、箸など分別を習慣づけている。
- (委員6) 意識のある団体などはよいが、自治会の高齢者の意識とは違う。
- (委員7) 小学校や幼稚園で出前の学習会をしているが、子ども達はよく知っている。高齢者に向けた対応が必要。県外のとある市は、プラについては汚れを流すと環境に悪いので、洗わずにごみに入れる。行政の考えもあるが、洗ってなくてもごみと再生できるなど、分別のチラシに表記が必要。これだけ分け方が問題視されているなら、簡易な分別でもよいので、カレンダー配布時に配らないといけない。啓発できることやガイドブックは継続していくべき。
- (委員1) ある学校で、ごみ袋の中に牛乳パックがたくさん入っていた。洗うことによって水を汚すが、市として各学校に指導しているのか？
- (事務局) 洗って流したら合併浄化槽で浄化されて流れるので、洗うべきだと思う。環境問題ではない。
- (委員3) 再利用するには洗って出すのは、最初から分かっていること。
- (事務局) 市町によってやり方が異なるので、洗うという選択をしていないということ。
- (委員3) 紙おむつはパッドを使用している家庭が多いと思うが、紙おむつとパッドは、他市町はどのように処理して再利用しているのか？
- (事務局) 基本的には県内で紙おむつとして分けている市があると聞いている。実際には衛生上、専用袋で分けているだけで、燃えるごみと聞いている。紙おむつは多重構造になっているのでリサイクルしにくいですが、先進的な3ヶ所に行って調査する。
- (委員3) いち早く取り組んで先進的なまちになってほしい。
- (事務局) 企業さんが入っていただけるとスムーズになる。
- (委員4) まとめとしては、まず雑紙とは何か？と環境教育。今はESDという方向で進んでいる。持続可能な発展。子どもから啓発していく。子どもが学校で習ったことは効果があり、時間はかかるが子どもの時からモラルをしっかりと確立させていくのが重要。

#### (○平成30年度取組み施策について)

- (委員1) 草・剪定枝のリサイクルについて。ブルーベリーを栽培しているが、草が生えて大変で剪定枝をチップにして敷き詰めたい。
- (事務局) 今回の提案は、費用対効果等を考えて、従来の焼却処分ではなく、民間でリサイクルを行う業者へ処分のルートを移行できないのかを検討していきたい。
- (委員6) 自治会で草刈りや枝払いをすると、だいたい100袋くらい出る。

- (事務局) 各自治会が草刈りをして、私どもが集めてこちらへ持っていくという行き先が変わるというイメージ。袋をどうするかは調査してない。
- (委員 7) 公園の草を刈った時は、袋に入れてと言われるが。
- (事務局) 清掃課が収集に行くので、危険性等を考慮して袋に入れてもらうようにしている。公園等の草は、維持課がフォークで対応しているのでそのままだが、清掃課はフォークがなく草が飛散する可能性もあるので袋に入れるようお願いしている。
- (委員 5) 30・10 運動を他の会議で話したが、当日に、食品業者が反対したので断念した。他の団体でも県外の先進地に視察を計画している。フードバンクの活動をしている団体もある。
- (事務局) 県内では、フードバンクは社協さんが取り組んでいる。地域単独で動いて、企業さんに寄付していただいているようだ。
- (委員 4) こども食堂とはどんな活動？
- (委員 1) 男女共同参画で取り組んだ。お米は市で処理できるので、お米以外を名古屋に送った。
- (委員 3) こども食堂は動いてないのか？
- (事務局) 地域でしている。各種団体さんが、いろんなところから食材を提供いただいている。
- (委員 3) 他県では、保管しておく倉庫がないため断念したというところも聞く。こども食堂は、母子家庭等個人情報の問題もあるので、個人的に伝えるのではなく、この日に開催しているから来てというやり方。
- (事務局) こども食堂は 1 食でも助かるなら来てください、という趣旨。プラスアルファで学習塾をしている場所もあると聞く。
- (委員 2) 先ほどの持ち帰りの件は、飲食店さんは食中毒の問題で勇気がいるが、ここに書いてあるということは、市としては飲食店で話ができているのか？そこをクリアして、今のうちに整理しないと。保健所への確認など。雑紙の件は、高齢者でなくても煩雑になればなるほど面倒になる。どれだけ簡単な形にするというのがカギ。最低限、どこときちんとやるのかを考えて、最初から完璧を目指さないほうがよい。
- (事務局) 持ち帰りについては、基本的には生ものはだめ。松本市は揚げ物店などに行くと、すでに袋が置いてあり、持ち帰りは自己責任だと表記してある。
- (委員 3) 30・10 運動は意識を持てばよい。作ってもらった人にも感謝して、取り組むことが大事。
- (委員 4) 「残さない、残さない」2 つ同じがあるので、3 ない運動なら 3 つ違った概念、言い方があったら。
- (委員 5) 今後、外国人観光客も増えてくるので、食べ物を残さないということをしっかりやらないと。

伊勢だから、というステイタスをつけたらどうかという話はした。

- (委員 4) 伊勢広域環境組合からの資料で、1 月の参拝客が多い時に、ごみの量が減った。神様のところにごみを捨てちゃいけないという感覚なのかなと。いろいろ貴重なご意見を、今後の施策の方針にさせていただきたい。